

## エドキンスの官話教科書が記述したことから

著者	塩山 正純
雑誌名	関西大学東西学術研究所紀要
巻	50
ページ	115-125
発行年	2017-04-01
その他のタイトル	Analyzing the Characteristics of the Mandarin Dialect in Edkins's Chinese Mandarin Textbooks
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/11248">http://hdl.handle.net/10112/11248</a>

# エドキンの官話教科書が記述したことから

塩山正純

## Analyzing the Characteristics of the Mandarin Dialect in Edkins's Chinese Mandarin Textbooks

SHIOYAMA Masazumi

J. Edkins's "Progressive Lessons in the Chinese Spoken Language with List of Common Words and Phrases and an Appendix Containing the Laws of Tones in the Peking Dialect" is a textbook on the Mandarin dialect published in 1862, which was subsequently revised four times in the 19th century (1864, 1869, 1881, and 1889). This textbook was written for Western learners, which means that topics and vocabulary are limited to trade between Western and China, and the specific areas where westerners lived in China. This volume therefore does not allow us to conceive of a true image of Chinese linguistic communications in 19th century directly. However, this textbook classified the vocabulary of Mandarin—the common dialect of modern China—by Western concepts, recorded the pronunciation of this language using the alphabet, and described expressions of time influenced by Western concepts in many cases. Through analyzing the content written in this textbook, this paper provides a true picture of linguistic image of the time written by Western people.

キーワード：エドキンズ (Edkins)、中国語 (Chinese language)、官話 (Mandarin)、宣教師 (Missionary)

## 1 エドキンズとその漢語研究の著作

エドキンズ (Joseph Edkins, 1823-1905 中国名：艾約瑟) は19世紀の来華英国人宣教師であり中国学者である。彼は中国滞在中に初期の官話訳聖書の翻訳に携わると同時に、一貫して漢語研究にも従事した。エドキンズの漢語研究における主要な著作として以下の2点がある。

- (1) 上海語の文法に関する著作 *A Grammar of Colloquial Chinese as exhibited in the Shanghai dialect*. 1853年初版、1868年第二版
- (2) 官話の文法に関する著作 *A Grammar of the Chinese Colloquial Language commonly called the Mandarin Dialect*. 1857年初版、1864年第二版

上記の上海語と官話を扱った各著作については、これまでに何群雄 (2000) 『中国語文法事始』や南部まき (2006) 「官話文法 (1857) の研究」などの先行研究があり、これらの先行研究での考察を通してエドキンズの漢語の語法解釈の特徴について窺い知ることができる<sup>1)</sup>。

このほか、エドキンズには外国人の漢語学習者に学習上の便宜を提供するために編まれた1冊の教科書 *Progressive Lessons in the Chinese Spoken Language with List of Common Words and Phrases and an Appendix Containing the Laws of Tones in the Peking Dialect*. (以下 *Progressive Lessons* と略称する) がある。この教科書はあわせて5つの版があり、初版が1862年、第二版が1864年、第三版が1869年、第四版が1881年、第五版が1885年に出版された。この5回の出版のあいだに語彙の入替えや増補が行われ、最後の第五版は語彙、フレーズ、例文合わせて3298例をもつ著作となった。

このエドキンズの教科書に関する主な先行研究としては、目下のところ語音の方面について考察した中村雅之 (2006) 「Edkins の記した19世紀の北京音」のみであると思われる。本稿ではこの教科書 *Progressive Lessons* の内容、語彙、語法、発音表記及び各版本間の異同について考察する。

## 2 官話会話教科書 *Progressive Lessons* の構成

本書はその序文、目次、発音のローマ字表記と声調表記、本編の全52課、そして全52項目の

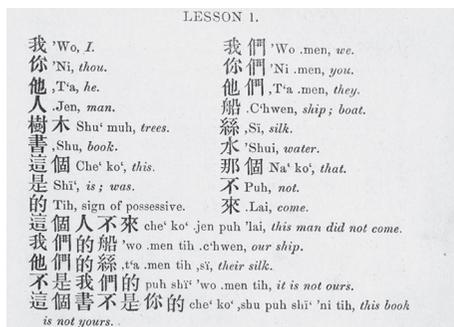
1) 何群雄 (2000) はエドキンズの小伝から一連の著作までの概要と研究の特徴を記述したものであり、南部まき (2006) はエドキンズの代表的著作である *A Grammar of the Chinese Colloquial Language*. (1857) から、主として名詞の下位分類、動詞の性質、接続詞の定義を中心とする品詞の問題を扱った論考である。

附録の語彙・フレーズ一覧、北京・南京・山東などの各地の官話の声調紹介によって構成されている。なお、49課から52課は北京語の発音に依拠して発音表記が施されていると序文で謳われている。

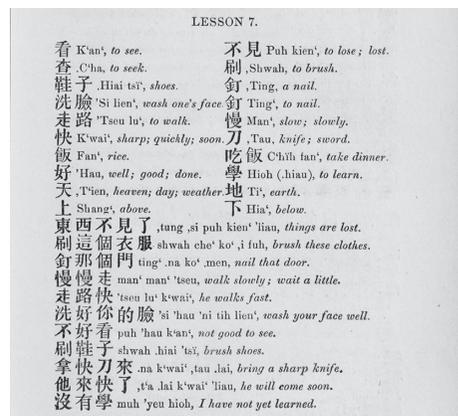
### (1) 本編52課

このほか、エドキンズはさらに編纂の特徴についても言及し、このテキストは中国語を詳細に解説するための教科書ではなく、有用な語彙・フレーズを収集してこれを反復練習するための教材であるとも述べている。

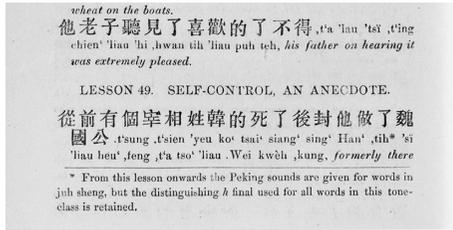
総じて見れば、本編の全52課は難易度の低いものから高いものへと系統的に順序立てて学習するスタイルではなく、それぞれの課ごとに設定されたトピックに基づいた会話文の表現を学習するスタイルである。しかし、冒頭の第1課から第11課までには各課に明確なトピックがなく、第12課以降と比べると、最も基本的な品詞である代名詞、量詞、名詞、動詞、形容詞といった簡単な語彙が並び、さしずめ、学習者に先に基礎をマスターさせて、その後具体的なテーマ毎の内容に進んでいくように意図されている（写真1・写真2）。基本的な語彙をマスターする冒頭の11課を除く、第12課からの全41課のテーマは順に「ボート漕ぎ、住宅、金銭、農村、身体、会話、仕立屋、社会、通信、度量衡、礼拝、人、時間表現、能力と技術、石工・れんが職人、学問、先祖、使用人、商取引、戦争、手術、井戸、晩餐、犯罪者を逮捕する、土地を買う、虎、象、銀鉱山、(甘肅省の)水、北京の石炭、帆船の航海、毛皮製品、外国の輸入手工業品、外国の朝貢品、玉璽(歴史とその発見)、感謝の念(とその逸話)、寛容(とその逸話)、自制心(とその逸話)、清廉(とその逸話)、私塾の規則、洞窟」である(写真3)。



(写真1) 第1課・1862年初版・大英図書館蔵



(写真2) 第7課



(写真3) 第49課

## (2) 全52項目の語彙フレーズ一覽

上述の各課はそれぞれ特定のテーマに沿って語彙、フレーズ、文を列挙しているが、本編の後半部分の52項目の語彙フレーズ一覽でもテーマごとに関連する語句を列挙している。但し、この《一覽》では、ごく少数のフレーズを含むものの、基本的には二三文字までの

語句のみを列挙するものである。全52項目は語法に基づいて分類される「場所と方位、時間に関する表現、肯定と主に“不”と“沒”による否定の表現、常用される形容詞、介詞、場所を表す接尾辞（原文は“Postpositions”例えば“衙門裡、跟前、門後、身上”など）、句末の表現（原文は“Fragmentary Clauses at the end of Sentences.”例えば“就完、便罷、纔號、纔知道”など）、常用の動詞、特色のある数の不変化詞つまり量詞（原文は“Distinctive Numeral Particles”例えば“個、盞、張、隻、枝、處”など<sup>2)</sup>、重要な助数詞（原文は“Significant Numeratives”例えば“張、條、帖、點、頓、堆”など<sup>3)</sup>、重さ・長さ・容積などの区分、質量を表す補助名詞、動作の数量を表す不変化詞（動量詞）」などの項目と、様々な分野毎に分類された名詞を列挙する項目の2つに大別できる。後者は「輸入品の臘、輸入の香料・胡椒、輸入の薬品、各種の輸入品、輸入海産物、輸入染料、輸入木材、輸入の時計類、望遠鏡、輸入の棉製品、輸入シルク（毛織物）、輸入金属類、輸入の宝石、輸入の動物製品、輸入の油製品、輸出の薬品、各種の輸出品、輸出の染料と紙製品、各種の輸出の食器、輸出木材、輸出衣料品（帽子や靴類）、現地（つまり中国）の布料、綿製品、輸出シルク、輸出食品、一般的な家庭用品、やさい、中国国内の動物、鳥類、魚類、台車の部品、建築用品、食用の液体、衣料、病気、船舶の部品、家具、虫、爬虫類」から成り、ほぼ全てが程度の差こそあれ、貿易や商取引、西洋

2) この項目の原文“particle”には注釈があり、“These particles are used to connect a number with its noun, when that noun represents an individual thing, i.e. when it is an appellative noun. There are about forty such particles, and of these arbitrary uses determines. (名詞が個々の事物を表している時、換言すれば、それが普通名詞である時に、これらの不変化詞は数をその名詞とつなぐ働きをしている。これらの任意の用途を限定するこのような不変化詞は約40ある。)”と解説されている。

3) この項目の原文“particle”にも注釈があり、“The words are used to connect numbers with material nouns or with other nouns, when a part of them needs to be spoken of. Significant numeratives are definite or indefinite. Those which are definite are weights and measures. Those which are indefinite are here exemplified. (それらの一部が話される必要がある時に、それらの語（つまりparticle）は、数を物質名詞または他の名詞に接続させるために用いられる。重要な助数詞は明確な場合もあれば、不明確な場合もある。明確な助数詞は度量衡である。不明確な助数詞はここで例証される。)”と解説されている。

人の中国での生活に係るものである。なお、52番目の項目「宿泊」は初版、第二版には無く、第三版から採録されている。

### 3 *Progressive Lessons* の本編・語彙フレーズ一覧の語彙解釈——

写真1から写真4からも見てとれるが、テキスト本編と語彙フレーズ一覧のそれぞれの語句がいずれも発音表記と英訳が施されている。学習者がある特定の近似の語彙の意味の隔たりが理解できないときは、例えば第三版以降の第5課本文にある“認得 jen4 the, know a person or know characters. 曉得 hiau3 the, know thoroughly. 知道 chi1 tau4, know a fact.”のような説明文を活用することが可能である。また、語彙フレーズ一覧では、名詞も基本的にはその他の品詞と同じ扱いで混在し、分野や内容を基準にして分類されている。一方で、動詞(285例)と形容詞、量詞は品詞を分類の基準にしている。

#### (1) 時間表現

本編・語彙フレーズ一覧における語彙解釈の一例として、時間と時段の表現についてどのよ

うな記述がされているのか見てみると、本編第24課と語彙フレーズ一覧の“time”の項には時間に関する表現が列挙されている。いずれも品詞に基づいて分類されているわけではなく、時間に関するあらゆる語彙が寄せ集められている。

第24課を例に課文の構成をみると(写真4)、まず前半で語彙“明天, 後天, 昨天, 上晝, 下晝(第二版以降は“晝夜, 此後”とする), 有時, 一會, 隔, 改日, 再”を列挙したのちに、以下に示すように先に解説した語彙を用いたいフレーズと文を挙げている。これらのフレーズと文の大部分はいずれも前半部分で列挙した語彙を用いてつくられており、学習者に対して語彙の反復練習という点で学習上の便宜を図っている。用例は以下の通りである。

LESSON 24. TIME.

明天 .Ming ,t'ien, to-morrow.	常 .C'hang, constant.
後天 Heu' ,t'ien, day after do.	又 You', another; again.
昨天 Tsoh ,t'ien, yesterday.	過 Tau' kwo', having gone.
上晝 Shang' cheu', forenoon.	幾會 'Ki hwei', how often?
下晝 Hia' cheu', afternoon.	來年 .Lai nien, next year.
有時 'Yeu .shí, sometimes.	一次 Yih t'sí, once.
一會 Yih hwei', once.	如今 Ju ,kin, at present.

隔 Keh, to separate; after.	即刻 Tsih k'eh, at once.
改日 'Kai jih, another day.	從前 .Tsung ,tsien, formerly.
再 Tsai', again.	古人 'Ku jen, ancient men.
難得 .Nan teh, seldom	初 .C'hu, for the first time.
前日 .T'sien jih, day before	先到 .Sien tau', first come.
他前日子不來 ,t'a ,t'sien jih 'tsi puh ,lai, the day before	去了幾會 e'hi' 'liau 'ki hwei', how many times has he gone?
從前有這個事情 ,t'sung ,tsien 'yeu che' ko' si' ,t'sing,	古人有一句話 'ku jen 'yeu yih kü' hwa', the ancients have
昨天死了 tsoh ,t'ien 'si' liau, he died yesterday.	此刻綢緞賤的 't'sí k'eh ,c'heu twan' tsien' tih, at present
為善的難得見 ,wei shan' tih ,nan teh kien', the virtuous	初到那裏認得 ,c'hu tau' 'na 'li jen' teh, on first arrival
我們先到 'wo ,men sien' tau', we arrived first. [qain.	昨天又來了 tsoh ,t'ien yeu' lai 'liau, yesterday he came a-
常做的 .c'hang tsó' tih, he constantly does it. [other day.	隔一日去一會 keh yih jih e'hi' yih hwei', go once every

(写真4)

前日→他前日子不來  
 從前→從前有這個事情  
 先到→我們先到  
 常→常做的  
 昨天→昨天死了

幾會→去了幾會  
 古人→古人有一句話  
 昨天→昨天又來了  
 隔、一會→隔一日去一會  
 難得、初→為善的難得見，初到那裏認得

第2版からは“為善的難得看見，初到那裏認得他”

語彙フレーズ一覧でも第2項の“Time”が時間に関する表現を取り上げており、初版、第二版では54例あり、第三版では“冬至月”と“前半天”の2例が増えて56例となり、その後は第五版まで語彙数の変化は無い。また、第三版以降は“下午”を“後半天”と改める。

きょう	今日	今天	今兒
あした	明日	明天	明兒
きのう	昨日	-	昨兒
あさって	後日	後天	-

このほか、語彙フレーズ一覧では例えば“今日、今天、今兒”“明日、明天、明兒”“昨日、昨兒”“後日、後天”のように語義が同じ語彙を並べて、ごく簡単に北方語での表現を紹介している。また、現代漢語の分類ではそれぞれ名詞、副詞と見做される語彙“纔剛、剛纔、纔、剛剛、剛”などは一括りで扱われて、英語の“just now”が意味として与えられている。語彙フレーズ一覧第2項で列挙されている全語彙を現代漢語での分類毎に分けると以下ようになる。

名詞：（時点） 毎年、去年、明年

正月、冬至月（第2版～）、臘月、二月裏、初一、初幾、十幾、二十幾

幾點鐘、幾下鐘、幾時、二更天、下午（第2版から“後半天”）、前半天（第2版～）

今日、今天、今兒、明日、明天、明兒、昨日、昨兒、後日、後天

如今、現今、當下、當現（now）、後來、末後兒、末後（at last）、纔剛、剛纔、

名詞：（時量） 一個禮拜、半個月、一年半

副詞：忽然、偶然、偶兒、已經、纔、剛剛、剛、正、正在、尋常、常常、三日後再來

連詞：再說

其他：先要、就說、一次、隔三天

## (2) 量詞

モリソンが『通用漢言之法』で82種類の量詞を提示して以来、19世紀の西洋人が編纂した漢

語テキストは量詞を比較的重視したが<sup>4)</sup>、エドキンズのテキストもその例外ではなかった<sup>4)</sup>。本編ではとくに量詞に特化して学習する課を設けておらず、各課の本文中に出現する用例も多いとは言えないが、語彙フレーズ一覧では“Distinctive Numeral Particles.、Significant numeratives.、Weights, Measures, Vessels, and other definite divisions.、Collectives.、Auxiliary nouns of quality.、Numeral particles to verbs.”の6項が専ら量詞を取り上げており、名量詞から動量詞まで、延べ196例が列挙されている。それぞれの項目毎に挙げられている用例は以下の通りである。

46. Distinctive Numeral Particles. (34詞) 個 (一個人)、盞、張、隻、枝、處、封、架、根、口、件、卷、顆、科、管、塊、領、面、把、本、匹、鋪、步、所、頭、條、頂、朶、朶、端、座、文、尾、位

47. Significant numeratives. (46例) 張 (兩張竹紙)、車、折、陣 (打了一陣雷)、棹、炷、船 (來了一船鹹魚)、幅子、封、項、口、間、句、塊、網、溜、粒、把、包、瓢、片、篇、疋、席、扇、手、手心、擡、帶、擔、道、頭、挑、條、帖、點、坨、紇、頓、堆、團、殮、層、節、丸、味

48. Weights, Measures, Vessels, and other definite divisions. (81例) 盞、站、張、章、丈、抄、秤、尺、櫛、盅子、分、毫、下、匣子、歇、會子、會兒、壺、忽、斛、日、甌、更、刻、斤、傾、角、卷、合、弓、句、罐、筐子、櫃、鍋、籃、箕、里、釐、兩、畝、秒、年、盤、盆、髹、盃、瓢、瓶、疋、步、煞、响、首、升、世、時、時辰、時候、箱、絲、歲、筭、代、口袋、擔、縶、邊、斗、牒子、點鐘、天、節氣、錢、撮、寸、桶、甕、碗、葉、月

49. Collectives. (22例) 枝子、串、副、行、壺、夥、軍、塊兒、貫、羣、股、排、班、片、雙、帶、刀、套、旗 (屬那一旗)、簇、隊、對

50. Auxiliary nouns of quality. (6例) 種 (這種人)、項 (這一項錢是僱船的那一項錢是僱車子的、這一項事情)、杆 (他們又是一杆人)、類 (不是一類的人)、般 (這般光景)、樣 (這樣人品)

51. Numeral particles to verbs. (7例) 翻 (又是一翻來了)、下 (打了三下鐘)、會子 (去了

4) 欧米人の近代における量詞の認識に関しては、欧米の研究者による先行研究では馬西尼「ヨーロッパ宣教師の中国語量詞研究総論」(2007年関西大学アジア文化交流研究センター国際シンポジウム「16-19世紀西洋人の漢語研究」での基調講演)などがあり、国内の研究者の先行研究でも伊伏啓子(2012)「早期西方人對漢語「量詞」的認識及其轉變——從 Numeral 到 Classifier」『靜宜語言論叢』第5卷第2期、塩山正純(2015)「浅论马礼逊汉语著作中的数量(量词)表现」『现代汉语的历史研究』などがある。

一會子)、遍(瞧過兩遍)、邊、遭、次

興味深いのは同一の漢字のものが複数のカテゴリーで取り上げられていることである。例えば、“張”は用いられる対象物の違いによって不変化詞と助数詞の両方に挙げられ、46. Distinctive Numeral Particles. では“張, chang, to stretch. Numeral of tables, bows, lops, etc.”と記述され、47. Significant numeratives. では“張, chang, a sheet of paper, skin, flat thin cakes.”と記述され、さらに用例“兩張竹紙”が挙げられている。

語彙フレーズ一覧における“條”の用例から、*Progressive Lessons*の量詞に対する解釈の一端を見てみると、一覧の第46項、47項及び本編第26課の説明文から“length”或は“collars, clubs, ropes, dogs, dragons, snakes, fishes, roads, doctrines”といった使用範囲を知ることができ、本編のそのほかの例文からは“長牆(長い壁)、褲子(ズボン)、道路(道路)”などの具体的な用法(対象物)を知ることができる。

一覧46. t'iau2. Sprout branch. Numeral of collars, clubs, ropes, dogs, dragons, snakes, fishes, roads, doctrines, etc.

一覧47. t'iau2. a length of anything.

本編13. 蓋一條長牆 kai4 yih t'iau2 c'hang2 t'siang2, build a long wall.

條

本編15. 這條路不近 che4 t'iau2 lu4 puh kin4, this road is not near.

本編18. 一條呢褲子 yih t'iau2 ni2 k'u4 tsi, a pair of cloth trowsers.

本編26. 條 T'iau, numeral of length.

本編38. 開一條斜路 k'ai4 yih t'iau2 sie2 lu4, open an inclined path.

#### 4 *Progressive Lessons* の発音表記

エドキンスは序文のなかで編纂方針とその重点を説明するなかで「この言語(つまり中国語の官話)で本当に良い話者になることを望むすべての人は、そのトーン(声調)を勉強する必要がある」と述べており<sup>5)</sup>、とくに発音表記に関して三つの重点を挙げている。第一は「本編の前半は官話の正書法(正音)で発音表記(『五方元音』)をしていること」、第二に「基本的に南京及びその周辺で広汎に使用されている規範的な5つの声調を採用していること」、そして第三が「それは『五方元音』に採用されており、プレマール、モリソン、メドハーストなどの先行研究も依拠している発音表記のシステムである」ということである<sup>6)</sup>。

5) 該当部分の原文は以下の通りである。“All who desire to become really good speaking in this language should study the tones.”

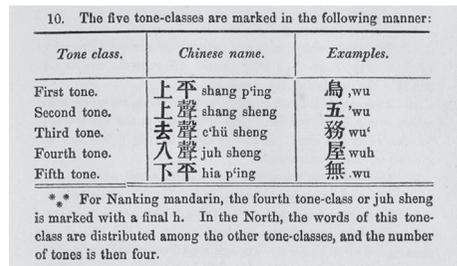
6) 該当部分の原文は以下の通りである。“The tones are marked in this work chiefly according to the

(1) 声調

*Progressive Lessons* は 5 種類の声調を “First tone、Second tone、Third tone、Fourth tone、Fifth tone” と呼び、それぞれ下表の記号によって声調を提示している。

.A	'A	A'	Ah	.A
上平 (第1聲)	上聲 (第3聲)	去聲 (第4聲)	入聲	下平 (第2聲)

声調に関しては、序文の Alphabet and Tone marks (アルファベットと声調表記) で「南京官話の第4の声調つまり入声はアルファベットのつづりの末尾に [h] を表記する。一方で、北方では、このトーン (入声) の語は、その他のトーンに吸収されて、トーンの種類は4つになっている」と記述し<sup>7)</sup>、そして本編第49課の注釈では「本課からは入声音の語にも北京音が充てるが、このトーンつまり入声の識別のための表記である末尾の [h] はそのまま表示する」と記述している<sup>8)</sup>。ここからも、エドキンズが発音の南北差を明確に認識し、本編



(写真5) Alphabet and Tone marks.

の第1課から第48課までは南京の発音に基づいて注音し、第49課以降は入声に北京音を用いて注音している。しかしエドキンズは正音つまり南京の発音を重視していたために、やはり継続して入声の標記である [h] はそのまま使用した。例えば、初版の“給”に対する注音を見ると、第35課では“貼出來給百姓看 t'ieh c'huh lai2 [kei3] peh sing4 k'an4”、第38課では“給象好走上 [kih] siang4 hau3 tseu3 shang4”、そして第50課では“温公就給他起了一個直字的名字 wen1 kung1 tsieu4 [keih3] t'al c'hi liau3 yih2 ko4 chih2 tsi4 tih1 ming2 tsi4”としているが、この表記のスタンスは第二版以降も変更されなかった。

standard five-tone system, or that now prevailing at Nanking, and in the northern part of Kiang-su and Ngan-hwei. Such is the system adhered to in the native Mandarin dictionary mentioned above, and by Premare, Morrison, Medhurst, and other authours.”

7) 該当部分の原文は以下の通りである。“For Nanking mandarin, the fourth tone-class or juh sheng is marked with a final h. In the North, the words of this tone-class are distributed among the other tone-classes, and the number of tones is then four.”

8) 該当部分の原文は以下の通りである。“From this lesson onwards the Peking sounds are given for words in juh sheng, but the distinguishing h final used for all words in this tone-class is retained.”

## (2) アール化音

例えば、本編第34課の “[兒 Ri] terminal particle placed after most nouns in the northern dialect.” で、エドキンズはアール化（音）については「北方方言でほとんどの名詞のうしろに置かれる接尾辞」であると記述している。また初版では“兒”の発音は [Ri] で表記し、のちに第四版からは [er] となる。同様に“二”の発音も [Ri] から [er] に変化した。同時期のテキストであるウェードの表記は [érh4] であった。

## (3) 発音表記：同一版本や版本間での異同

本書では、若干の例外はあるものの、同一の版本の本文全52課が、第49課を境目として発音表記に南方音と北方音の区別があると著者であるエドキンズが謳っている。そして、その発音表記は少数の例外を除いて、5つの版本間の異同は少ない。その発音表記で注目に値するのは、同一の版本の中で、“去”“見”など一部の漢字に対して、例えば第3課の“拿去 na2 [k'ü4]”と第52課的“進去 tsin4 [c'hü4]”、そして第7課の“不見 puh [kien4]”と第48課の“聽見 t'ing1 [chien4]”というように複数の表記が混在している事実である。しかし、*Progressive Lessons* の周辺資料の表記と対照してみると、この一つの音に対して複数の表記が併存する現象はその発音そのものが調音点が後から前に移動したということの意味するものではなく、表記の基準が変化の途上にあったと考えるのが妥当である。また同時に、一つの漢字が複数の種類の発音をもつ現象もある。例えば、“稍”の発音表記の違いは比較的明確で、初版、第二版は [Sau] で、第三版以降は [Shau] に変化している。

	課	初版	二版	三版	四版	五版
稍為	42	Sau3wei2	Sau3wei2	Shau3wei2	Shau3wei2	Shau3wei2

## 5 さいごに

エドキンズのこの教科書は外国人が官話を学習するための教材の一つであった。この教科書が編纂された時代はウェードが『語言自邇集』を編纂した時代と同じ時期であり、中国における政治の中心地が南から北にだんだんと移っていった時代である。『語言自邇集』が全面的に北方後を重視したという特色とは相反して、この *Progressive Lessons* は幾つかの北方語の特色をもつ語彙やアール化音を記述し、同時に本編の一部の本文中でも北方語の発音で注音している。しかし、それらの北方語の発音に基づく注音にもさらに敢て入声音のマーカーである [h] を表示している。この事例からも、エドキンズが北方語の重要性を認識し、その発音の特長を明確

に表記すると同時に、やはり依然として南京官話を正音とする立場を採っていたことが分かる。*Progressive Lessons*の本文、語彙フレーズ一覧の話題と内容は、学習者が様々な場面でコミュニケーションを円滑に行えるように、その範囲が非常に広範にわたるが、西洋人向けのテキストである性格上、傾向としてはやはり貿易・交易や西洋人自身の中国における生活の場面に話題が集中しており、中国人コミュニティーのコミュニケーションを反映したような用例は見られない。また、語彙フレーズ一覧では数量に関する項目が比較的多く、とくに量詞の語彙数も豊富であり、個別の語彙に対する説明も詳細であり、エドキンの中国語の数量表現に対する見方は、エドキン以前の西洋人研究者が一貫して持ってきた態度と一致する。*Progressive Lessons*の出版値は上海であり、また20数年にわたって4度の重版があった。総じて言えば、この事実からも、注音で北方音も同時に採用しつつも、基本的に地方色つまり南方語の伝統的特色を堅持したことによって学習者の長期的な支持を得た一冊のテキストであったといえることができる。

〈表1〉“學”の注音の変化（“>”為與左側相同）

	課	初版	二版	三版	四版	五版
學	7	hioh, hiau2	>	>	>	>
沒有學	7	muh yeu3 hioh	>	>	>	>
義學	51	i4 hiöh2	>	>	>	>
學文	51	hiuèh2 wen2	>	>	> (問)	hiuèh2 wen2
義學	51	i4 hiuèh2	>	>	>	>
學堂	51	hiöh2 t'ang2	>	>	>	>
學生	51	hiöh2 sheng1	>	>	>	>
學生	51	hiau2 sheng1	>	hiöh2 sheng1	>	shiöh2 sheng1
放學	51	fang4 hioh2	>	fang4 hiöh2	>	>

参考資料・参考文献一覧

Edkins (1862, 1864, 1869, 1881, 1885) *Progressive Lessons* (正式の書名は本稿冒頭に記載)

Wade (1867) 《語言自邇集》

何群雄 (2000) 『中国語文法事始』(三元社)

中村雅之 (2006) 「Edkins の記した19世紀の北京音」『KOTONOHA』38号

南部まき (2006) 「官話文法 (1857) の研究」(関西大学大学院博士学位請求論文)